

令和5年4月市長定例記者会見

日 時：令和5年4月3日（月） 午後1時30分～

場 所：射水市役所会議室305・306

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、富山テレ放送、射水CATV
庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、都市計画課長、
河川・港湾課長、生涯学習・スポーツ課（新湊博物館）係長

○質疑応答の概要

Q1. グリーンパーク大門が完成し、今後の利用者に対して市長からメッセージを
いただきたい。

A1. 親子で楽しめる初心者向けの施設となっている。スケードボードは、東京五輪において富山市出身の中山選手が銅メダルを獲得したということもあり、関心やニーズが高まっていると認識している。初心者の方や親子でご利用いただき、スケートボードに親しんでいただくということと、親子の触れ合いの機会にもしていただきたい。

また、公園のさらなる活性化や賑わい創出にもつながると期待している。今後、関係団体のご意見も伺い、情報収集しながら利用者のニーズに応えられるよう検討していく。

Q2. (仮称) 観光移住センターについて、新年度予算に計上されているが、このセンターのねらいと今後のスケジュール及び、センターの開設によってどれくらいの移住効果を目標としているのか聞かせてほしい。

A2. 稼げる観光地域づくりと移住・定住先としての魅力発信を一体的に進めるため、本市の観光・移住施策に係る企画部門と市観光協会の実行部門を融合させ、加えて不動産関連事業とも連携しながら、これらの業務を効率的かつ効果的に担っていくことを目的としている。

設置場所については、クロスベイ新湊周辺が効果的ではないかと考えているところであるが、今後、設置目的や得られる効果・成果、運営にかかる費用など、様々なシミュレーションをし、ふさわしい立地場所についてなるべく早い段階で、議会にも説明しながら進めていきたい。

効果については、第2次観光振興計画にもお示ししているが、地域資源を活

用した魅力向上や受入れ環境整備、情報発信・マーケティングの強化、観光消費額を上げる地域産業の活性化への取組を掲げ、食・景観・文化の魅力を生かした稼げる観光地域づくりに向けた施策に取り組んでいきたいと考えている。

具体の目標数値などについては、センターの概要を示していない中で、申し上げることは差し控えたい。概要が固まってきた段階でお示しできればと考えている。

Q 3. 議会へ示す時期は6月議会ということでよいか。

A 3. 次の定例会が6月になるので、それまでには様々なパターンをシミュレーションし、議会にお示ししたい。

Q 4. クルーズ船について、市内観光は予定されているのか。

A 4. お越しの方々については、事前に立山方面や五箇山方面、瑞龍寺などのオプションツアーの申し込みをされている。射水市内の観光についてツアーを組んでいるわけではないが、近隣市街地で食事や買い物をしていただけるようマップ等をお配りすることとしている。

また、新湊の市街地で乗車することができる「べいぐるん」を岸壁に配置し、希望があれば乗車いただけるよう準備したいと考えている。

Q 5. オプションツアーに行かれず、自由行動の方もいるのか。

A 5. ほとんどの方がオプションツアーに行かれると聞いているが、行かれない方もおられる。市内観光をしたいという方がいらっしゃれば、しっかりおもてなしの体制をとりたい。

Q 6. 今後、他のクルーズ船の入港の予定はあるのか。

A 6. 富山新港では、今後の予定は聞いていない。

Q 7. 以前、弊社（読売新聞社）で全国の自治体首長にアンケートさせてもらった中で、ふるさと納税について制度の見直しが必要であると回答いただいている。仲介業者への手数料の負担が大きいとの理由であったが、もう少し具体的に聞かせてほしい。

A 7. 多くの申し込みをいただくということは非常にありがたいことではあるが、一方で、返礼品の発送業務が市の職員でできる範囲を超えており、（他市でもそうであるように）発送を仲介する業者などへ発送業務をお願いし、手数料がかかっているという状況である。

また、制度上、返礼品は一定程度の金額で抑えることとなっている。決まった金額の中で、返礼品や発送業務にかかる予算を確保することになると、ただくご寄附に対し使える金額が少額となってしまいうため、もう少しなんとかなればありがたいと思っている。

多額のふるさと納税を受けておられる他の自治体では、専属の職員を配置し、返礼品の掘り起こしやPRを行っているところもあると伺っている。今後は、先進事例の取組も研究させていただき、本市の取組みの充実を図っていきたい。

Q 8. 市内の食香バラが日本一の生産地になったということについて、今後期待したいことがあれば聞かせてほしい。

A 8. 地元のみなさんの熱意と、食香バラの生産にこれまで取り組んでこられた県外の生産者の方のご理解もあり、今年もその苗を多く植えさせていただいている。

昨年も実際に収穫されたバラを、地元のイタリア料理店で提供されたり、バラを加工したローズウォーターやジャムなどの加工品を試験的に作られたりしている。今後、生産量も増えるということで、市の新たな特産品となればありがたい。

また、花摘み体験もできるようになれば、体験型の観光商品のひとつになるのではないかと思っている。地元の生産者や企業とも連携しながら検討していきたい。